

当時の変額保険は特別勘定の数はほとんど1つで、保険会社の運用次第となります。また、当時、一般的な保険が5%以上の高予定利率時代に3.1%という予定利率で販売されたようです。つまり、保険料は他の定額型の終身保険や養老保険に比べ高いこととなります。それでも、運用の期待もあり、また、インフレに強いということで鳴り物入りで各生命保険会社から発売となりました。そしてバブルの崩壊と共に一線から消えました。

現在はどうかと申しますと、変額保険は、新たな保険市場での大きなトレンド（傾向）になりつつあります。

まず、変額保険（特別勘定での運用）の種類が大きく増えました。

1. 変額保険終身型（終身保険を特別勘定で運用したもの）
2. 変額保険有期型（養老保険を特別勘定で運用したもの）
3. 変額保険定期型（定期保険を特別勘定で運用したもの）
4. ユニットリンク保険（養老保険タイプであるが運用益は積立部分のみに廻す）
5. 変額個人年金（年金保険を特別勘定で運用したもの）

いままでは、1. 2. だけでした。今では、大きく分けて5種類の変額保険が売られています。しかも、その内容は目を見張る内容に激変しています。おもな変更点は

1. 特別勘定（ファンド）の数が3~13程度のマルチ型ファンドが選べます。
2. 契約時にファンドの繰り入れ率を自由に設定出来ます。
3. 途中でファンドの繰り入れ率を自由に変更できます（無料変更回数は各社の規定による）。
4. 積立金のファンド移転も自由に変更できます（無料変更回数は各社の規定による）。

そして、最新型変額保険は予定利率の高さも際だっています（終身タイプ、養老タイプ）。

バブル絶頂期でも3.1%の予定利率でした。現在は、他の定額型保険が1.5から2%の予定利率であるにもかかわらず、3.1%から4.5%と高い予定利率の設定となりますので、保険料が圧倒的に安くなっています。例えば、終身保険を同条件で比較した場合、変額型保険の保険料は、定額型保険の半額以下（年齢によります）になる場合もあります。

もちろん、インフレにも強いので長期の保障や運用に向いています。

保険料が圧倒的に安く、そして高機能と来れば…自分のリスクの許容範囲内であれば、検討に値する保険と思います。特に若年層であればあるほど、インフレリスクにさらされやすいので、インフレ対策として、そして、生涯支払う保険料のコスト削減（圧倒的に有利となります）など、メリットは多くなります。

次回に続きます。

4. 新商品紹介

今月は特に新商品がありませんでしたので、今回は優れた商品であるが一般的に認知度が低い商品をご紹介します。

今回は、セコム損害保険会社のガン保険「メディコム」を紹介します。

このガン保険は従来のガン保険とは全く違うコンセプトで作られています。

最大の違いは自由診療に対応している点です。ガンの最先端治療方法は日進月歩進んでおり、労働厚生省における保険診療の認定が追いついていないという事と、治療費があまりにも高額なため、自由診療となる場合があります。自由診療は一般的に保険診療からはずれま

2. FPまいんど

資産の運用で考えなければならない重要な項目の一つに「インフレ」があります。

インフレとは物価の上昇を言います、裏を返せば通貨の価値が下がることを意味します。

反対の言葉に「デフレ」があります。1999年以降、消費者物価指数はデフレ基調になっています。しかし、10年前、20年前またはそれ以前から見てみますとインフレ基調となっています。

私事ですが、最近、中学校同窓会の打ち合わせがあり、たまたま当時の資料を見たら、当時の「はがき」の値段がなんと5円でした。約35年間で「はがき」の値段は10倍になりました。これは、約年7%複利と同じ効果となります。

説明しますと、35年前に元金100万円を年7%複利で運用した場合、現在の元利合計額は約1,000万円になります（税は考慮せず）。年7%の複利は今ではとんでもない高金利で、元利合計で10倍にしたことは一般的に運用は大成功したと思われ（まず、ここでは長期複利運用のすばらしい効果を認識してください）。

しかし、現在の物価水準が当時の10倍となった場合、結局お金の使い勝手はあまり変わりません。つまり、貨幣の価値も10分の一に目減り（現在価値で約10万円相当）したのと同じになります。

仮にインフレ率が2%として、100万円の将来価値はいくらになるかを計算すると、10年後は約82万円、20年後は約67万円、30年後は、約55万円と価値は目減りします。逆に現在100万円のサービスが将来いくらのコストになるかを計算すると、10年後には約122万円、20年後には約149万円、30年後には約181万円のコストになります。例えば現在なら100万円で夫婦で海外旅行に行けますが、その予算で30年後の定年時には、同じ海外旅行が181万円必要となります。

このように資産運用において「インフレ」はまさに「敵」なのであります。

誰1人たりともこの「敵・インフレ」は避けることができません。みなさん公平に関与してきます。以上の事を踏まえれば、元金保証というの、特に長期運用の世界では絶対安全とは言えません

よって、この「インフレ」を認識して、「インフレ」に強い、または、勝てる運用も取り入れなければなりません。

3. 保険DE運用

今回は、前段で「インフレ」の話に触れましたので、「インフレ」に強く、また勝つことの出来る数少ない保険である変額保険の話をしていきたいと思えます。

ここで、変額保険と言うと一部マイナスのイメージをお持ちの方がいらっしゃいます。

それは、1990年前半にかけバブル絶頂期に、相続対策などで金融機関から保険料の融資を受け、それを一時払いの変額保険に充当した契約上の問題があったからです。問題なのは、自己資金ではなく、融資された資金によるもので加入したことによります。それによって、自分が容認できるリスク以上の金額で契約した結果です。

変額保険は積立部分の運用が特別勘定（ファンド）で運用されますので、運用の結果は契約者本人に帰属となり、変動リスクはあるものの大きなリターンが期待できます。一般的に積立部分の最低保証は有りません。ただし、死亡・高度障害時の最低保証は有ります。

すので治療費は高額になります。その時の治療費は従来のガン保険では充分まかなえるとは言えませんでした。その自由診療を全額負担できるのが「メディコム」ただ1つだけです。

現在の日本の医療技術は大変進歩していますが、保険診療という枠組みに縛られ、患者が治療方法を自由に選択できないのが現実です。その理由の一つに、セカンドオピニオンの普及が遅れていることです。セカンドオピニオンとは主治医以外の医師に治療法などの見解を求めることです。次に、治療コストが高いということです。そして、治療法は病気そのものを根治させるのみならず、退院後いかに社会復帰するかが大きな要因になると思います。社会復帰を視野に入れるならば、体に負担が少なく、各部分の機能を失うことなく、短期間で退院できる治療方法が望まれます。

そのためには、自由診療の部分も意識した治療方法も考えなければなりません。

その解決策として「メディコム」があります。

ガンと診断されましたら、まずはセコムのコールセンターにて専門の看護師が電話にて対応し、必要であればセカンドオピニオンの提案、当該ガンにおける最先端医療機関のご紹介、入院手続きまでしてくれます。そして、最先端自由診療にて治療したときには、セコムより治療費は全額医療機関へ支払われます。患者は治療費の立て替え払いが無いので、なんの心配もなく治療に専念できます。

このように先進医療の自由診療費用をカバーできる国内唯一のガン保険「メディコム」は「週間ダイヤモンド」の専門家による保険商品ランキング、「医療・ガン保険の部」で2期連続1位の名誉をもらっていますが、認知度の低さがネックとなっているようです。

なお資料「最先端ガン治療レポート」「パンフレット」等必要な方は当店にご連絡いただければと思います。

5. お知らせ

夏休みのご案内

8月13日（水）～8月17日（日）まで夏休みとさせていただきます。

緊急連絡は、

留守番電話 023-654-8831

ファックス 023-654-8832

携帯電話 090-3645-2711（事情により出られないときが有りますので
ご了承をお願いします）

なお、保険会社は平常通り営業しております。

みなさまも良い夏休みを

発行者

山形安全情報企画 武田幸夫

〒994-0054 山形県天童市荒谷2589

TEL 023-654-8831 FAX 023-654-8832

E-mail tide@mm.newweb.ne.jp